

# 長崎の林業

小曾根星堂書



1

こま  
ドンダリの独楽づくり (ドンダリのひみつ展)

## 目次

● 林政だより	住宅フェア 2020 まちづくり総合住宅フェア 「withコロナの住まい展」..... 2~3
● 特集記事	樹種の特徴を活かした表情豊かな作品を 佐世保市「木芸たけし」古賀武さん ..... 4~5
● 林業普及だより	壱岐の森林経営計画 ..... 6
● 地方だより・県北	田平南小緑の少年団 学校林での森林体験学習 佐世保市祇園緑の少年団 間伐体験活動 ..... 7
● 地方だより・島原	「市町村森林整備計画勉強会」を開催 ..... 8
● 林業団体情報	「ながさき県民の森 フォトコンテスト2020 表彰式」 を開催しました！！ ..... 9
● センターだより	ドローンの飛行高度とラップ率について ..... 10
● 紹介コーナー	平戸 <small>まき</small> の木庵 井上睦夫商店 ..... 11
● 長崎の山：帆場岳506m (長崎市)	..... 12



2021  
No.784

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ご自由にお持ち下さい。

FREE

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税により発行しています。  
「長崎県庁」のホームページ「広報」→「県の発行物」からもご覧いただけます。

林政だより

# 住宅フェア2020まちづくり総合住宅フェア 「withコロナの住まい展」



基調講演・トークセッション「withコロナの住まいと暮らし方」

## 住宅フェア

住宅に関する意識の向上や豊かな住生活の実現などを図るため、毎年10月は「住生活月間」として全国各地で様々なイベントが実施されています。

本県では平成3年度より「まちづくり総合住宅フェア」を開催しており、本年度は10月29日から11月2日まで、長崎県庁において、「今後私たちに求められる新しい生活様式(withコロナ)」をテーマにパネル展示等を行い、広く県民の皆様に住まいに関する情報が発信されました。

## JAS 木製品、木造ビル

withコロナの新しい生活は、リモートワークなどでこれまで以上に長い時間を過ごすこととなる自宅をより快適にするという観点から、木材・木製品への関心が高まっています。

主催者の「長崎県ゆとりある住まいづくり推進協議会」のメンバーでもある長崎県木材組合連合会では、クリーンウッド法(違法伐採木材の取引を規制する)、JAS 木製品の普及に関する展示や、木堀のサンプル、木造3階建て

の模型の展示などが行われました。また、展示用のパンフレット入れは長崎県木材青壮年団体連合会により作成されたものです。

展示を見た参加者からは「木造で3階建て以上が建てられるようになったのは初めて知った」「飲食店を経営しているが、建て替えるときは木造も検討したい」といった声が聞かれました。



木造3階建模型、パンフレット入れ(県木連)

端材でDIYキットを作成、売上で植林  
諫早市の高島建設工業(株)では「再生可能

な木材と森を作っていくプロジェクト」と題した展示が行われました。※プレカット工場で発生する端材は、大部分が焼却処分や産業廃棄物として処分されていました。そこでコロナ禍により増えたDIY需要に着目し、端材を活用してDIYキットを作成・販売し、その売上の一部を長崎県内の植林に使うことを考案しました。

※「pre」（あらかじめ）と「cut」（切る）を併せた造語。伝統的に木材の加工は、大工が現場で柱や梁に墨付けをし、ノミやカンナ等を使っておこなっていたが、プレカットは全ての木材加工の工程をコンピューター制御による機械で行う。現在、木造軸組構法におけるプレカット材の利用率は92%に達している（H28）

らの製品が1つ売れるごとに、長崎県森林組合連合会、長崎南部森林組合などと協力して県内に5本の植樹が実施される予定となっています。



プロジェクト イメージ



間柱の端材を活用したラック

実際に手に取られた方々からは「木の香りが良い」、「植樹をするというコンセプトが素晴らしい」といった声や、「ラックに多肉植物を飾りたい」、「キャンプに持っていきたい」など具体的な用途に思いが膨らんでいる様子でした。



キャンプをテーマにした展示(高島建設工業(株))



スツール：床、テーブル：屋根の端材を活用

床材に使われる合板の端材を再利用した組み立て式のスツールや、間柱の端材を活用したラックなどの試作品を、こちらコロナ禍により人気上昇している「キャンプ」をテーマにして展示が行われました。また、これ

木材業界においても、生活様式が変わる中で、これまでなかった技術の使い方や発想によって新しいビジネスチャンスが生まれ、木材の使い方も幅を拡げていく機会であると言えます。新たな生活様式に即した商品開発や、公共施設でのPRにより木材の需要を喚起していきたいと考えています。

(林政課 森林活用班)



**【特集記事】**

**樹種の特徴を活かした  
表情豊かな作品を**

**佐世保市「木芸たけし」 古賀武さん**

木工細作家 こが たけし 古賀武さんと鷹の壁掛け（材料：ヒノキ、シナ、タブなど）

佐世保市の中心部にある「島瀬美術センター」は、隣接する島瀬公園と共に市民の憩いの場となるよう造られた、博物館を有する美術館です。毎年約130件の特別展や企画展などが開催されており、そのうち個人の作品を集めた個展が年間90件ほど開かれています。多くの観覧客が訪れるこの美術センターで昨年9月、県内に住む2人の木工作家さんが開いた作品展がありました。最終日はあいにく台風の接近の為、時間短縮となったものの、4日間の開催期間中延べ300の方が観覧に訪れたそうです。今回はその作品展に出品したお一人、佐世保市在住の木工細作家の古賀武さんにお話を伺いました。

**木工との出会い**

現在75歳の古賀さんが手掛ける木工細工の作品は概ね大型のものが多く、その迫力と美しさ、そして手に取った時の重量感に圧倒されるものばかりです。元々は市内で食品関係の仕事をされていた古賀さん。木工の経験はほとんどなかったと言います。木を使って自分で何かを作ったのは小さい頃。現代のように身近におもちゃが溢れる

時代ではなかったため、遊びの一環として友達と錐を使ってメジロ籠を作ったくらいだったそうです。そんな古賀さんが木工を始めたのは今から30年程前。たまたま目にした面白い形をした木の根っこを手に、形を整え飾ってみようとオブジェにしたのが始まりでした。その後は仕事の合間に友達と山へ行き、珍しい形の木の根を見つけては花台などに加工。そうして色々な木に触れていくうちに木工の面白さや木目の美しさに魅了され、作品の幅がどんどん広がったそうです。



(左) 木工を始めるきっかけとなったヒノキの花台  
(右) 左の車は初期の頃の作品（約25年前）

**趣味から始まった本格的な木工作業**

今まで何気なく身近にあった木々の魅力と可能性に気付いた古賀さんは、その美しさを最大限に活かす作品作りに打ち込んでいきます。隙間時間を見つけては友達と山に

行き、材料となる木を伐り新しい作品を生み出していきました。ついには製材機器など木工に必要な機械を一通り揃えた作業場を自宅の一角に作ってしまったそうです。



(左) 沢山の道具が所狭しと並ぶ作業場  
(右) お手製のベルトサンダーとディスクサンダー

## 多様な樹種を用いた作品作り

山から切り出した木材を大切に保管し、その中から作品に合った木を選んで製作に取り掛かります。作る作品によって何の木を使うか考える時間も楽しみの一つ。サクラ、クス、マキ、タブなど山で見つけたお気に入りの木は古賀さんの作品作りに欠かせない大切な宝です。間伐し、山にそのまま放置されたヒノキや建築材料の柱の切りくずなどを貰い受け、大事に命を吹き込む古賀さん。その作品作りが評価され、市民展で3年連続入選を果たされています。



市民展入選作品、どちらの魚も材料はヒノキ  
(左) ブルーギル (右) イエローパーチ

## 新しい作品作りへの挑戦

車好きが高じて、各車メーカーからカタログを取り寄せては大好きな車の作品を次々に手掛けていきました。持ち前の器用さと探究心で細かい部分の再現にも成功したものの、よりリアルな表現を求め勉強を重

ねました。しかし古賀さんが求めたお手本となる木工作品は日本にはあまり多くありませんでした。そこで手にしたのが海外の本。英語を読み解き、木の持つ自然な色合い、特徴に合わせた組み合わせなどを学んで作品作りに役立てました。必要に応じて国産材だけでなく時には外材も取り入れ、作品の題材に合わせて細かな色合いを調整しました。古賀さんの作品は、車をはじめ動物までもが色彩に溢れ、表情豊かでまるで生きているかのようです。色々な樹種を組み合わせで作っていますが、もちろん設計図などはありません。全て感覚で組み合わせられた作品の全てが滑らかで、自然で優しい風合いに仕上がっています。



(左) 働く車シリーズ (1台の大きさは約70cm)  
(右) お気に入りの壁掛け「ダルメシアン」

実は古賀さんには、もうひとつ趣味があります。鉄道模型です。沢山の木工作品が並ぶ部屋一面に張り巡らせた線路で、自慢の車両を走らせる時間は格別だそう。なんとその鉄道模型の車両も木で手作りされていました。小さい木製模型の中にモーターを埋め込み、本物の車両を忠実に再現した作品は何とも味のある可愛らしいものでした。



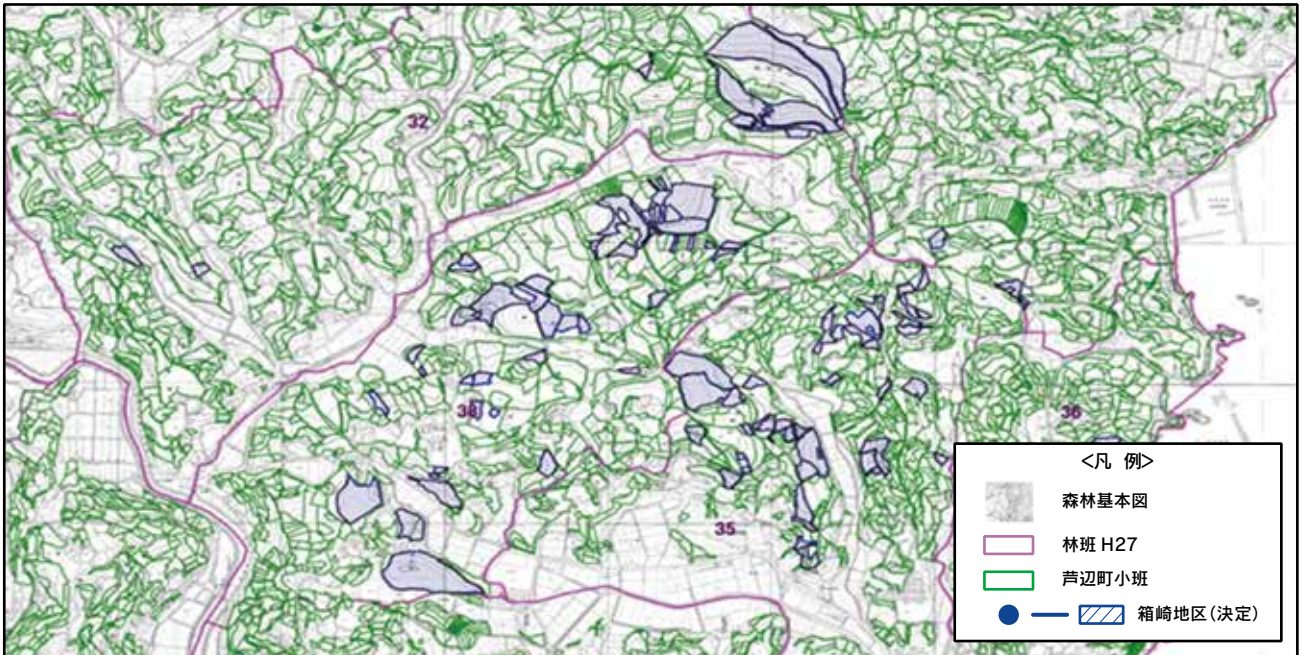
ライト付き木工車両

作りたいものを作るために必要な道具まで自作する古賀さん。愛情をこめて丁寧に作られたひとつひとつの作品からは、木々の柔らかな温もりが伝わってきました。

(NPO法人地域循環研究所)

林業普及だより

# 壱岐の森林経営計画



計画対象森林の所在を示した図面 ※緑と紫色の区域が森林

## はじめに

森林経営計画認定制度が開始された平成24年度当時は、壱岐で属地計画の要件である林班面積の1/2以上の確保は困難、また、属人計画の要件である所有森林100ha以上の森林所有者は存在しませんでした。その後、平成26年度に制度の見直しが行われ市町村長が定める一定の区域内で30ha以上の区画計画が追加されたことで、今回壱岐市森林組合が初めて計画作成することとなりました。

## 森林経営計画作成

壱岐の人工林は、1.0ha以下の小規模な面積が99%以上の割合で点在しています。そのような中で芦辺町箱崎地区は人工林が纏まっており、市有林及びその周辺の森林で保育間伐等の施業履歴があった箇所を中心に当該地区を計画作成の場所に設定することにしました。なお、作成するに当たって技術的指導等を壱岐振興局が行いました。

当地区は、森林所有者の高齢化等により森林に対する関心が薄れている状況でした。そのため、森林所有者に関心を持ってもらえるよう①適正な森林整備・保全を通じて、森林の持つ多面的な機能を持続的に発揮できる森

林経営を目指すこと、②当該計画は、保育間伐を中心とした施業になるが、環境林としての効果を発揮しながらも将来的には経済林となることを目標とすることを説明しました。その結果、森林所有者の理解を得て25名と委託契約書を締結することができました。

壱岐市へ認定請求書を提出し令和元年12月20日に計画が認定されました。

計画期間 始期：令和2年1月6日

終期：令和7年1月5日

対象林班面積 624.89ha

計画対象森林面積 37.39ha

## おわりに

今年度はこの計画をもとに3.37haの保育間伐を実施しています。

今回は、保育間伐を中心とした計画となっておりますが、次期計画以降では搬出間伐を中心とした施業を計画できるよう、引き続き指導を行っていきます。

(壱岐振興局 農林整備課)

地方だより

## 田平南小緑の少年団 学校林での森林体験学習

11月10日（火）、平戸市田平町にある田平南小学校の学校林で、田平南小緑の少年団員の5・6年生18名による森林体験学習が行われました。



この学校林は、生徒たちの先輩が植えたヒノキ林であり、林内には立派な記念の石碑も据えられています。

団員達は、田平南小緑の少年団の指導者で、



平戸の自然・文化・歴史に詳しいむらかみ邑上先生と、県北振興局の林業普及指導員から、植林地の管理の仕方や、森林の役割、森林土壌の成り立ち、針葉樹と広葉樹の違いなどについて学ぶことができました。

林の中で、実際に葉っぱや枝・土に触り、その匂いを感じて感想を言い合いながら、森林や林業の大切さを学ぶ良い機会になりました。

## 佐世保市祇園緑の少年団 間伐体験活動

11月15日（日）、佐世保市烏帽子町の佐世保市有林内で、佐世保市祇園緑の少年団による間伐体験活動が行われ、小学5・6年生を中心とした団員14名と指導者4名が参加しました。



県北振興局の林業普及員と普及指導協力員の指導の下、団員たちは、のこぎりで間伐作業と丸太切りを体験しました。木は予想以上に硬かったようで、団員達は、伐採が大変な



作業だということをも身を持って体験したようでした。

その後、佐世保市の森林体験館に移動し、丸太の輪切りを使った木工製作や、山にあったツルでのクリスマスリース作りも行い、コロナ禍でイベントが次々と中止になる中、久々の野外活動を思う存分楽しんでいる様子でした。

（県北振興局 林業課）

地方だより

## 「市町村森林整備計画勉強会」を開催



「市町村森林整備計画」は地域の森林・林業の特徴を踏まえた森林整備の基本的な考え方やこれを踏まえたゾーニング、地域の実情に即した森林整備を推進するための森林施業の標準的な方法及び森林の保護等の規範、路網整備等の考え方等を定める長期的な視点に立った森林づくりの構想“マスタープラン”となる計画です。市町村は森林所有者等が作成する、森林経営計画の認定や、伐採及び伐採後の造林の届出への指導などを通じて、市町村森林整備計画に即した森林施業の実現に導いていきます。

この市町村森林整備計画は、市町村が5年ごとに作成する10年を一期とする計画であり、今年度は島原振興局管内3市において作成の年となっています。管内3市の林務担当者には、担当になって1～2年目の方もいるため、11月27日（金）に担当者に向けた勉強会を開催しました。

市町村森林整備計画は、県レベルの計画である「地域森林計画」に適合した内容となっています。計画を作成するにあたり、現行の計画から内容の変更が必要となるのは、この地域森林計画の変更に合わせて森林面積や林業専用道に関する項目となり、この他に各市の現状に合わせてゾーニングや区域計画等が挙げられます。内容を検討する中で、地域森林計画により準じた内容への変更や、文言統

一など、細かな部分についても3市で共有することができました。さらに、3市の中でも林務担当期間が長いベテラン担当者から、1～2年目の担当者へ向けて、記載内容に関する市としての考え方や手続き上の注意事項等について、市の目線からも詳しく説明していただきました。また、他市の記載内容を参考にすることにより、内容を再度検討することができ、より各市の実情にあった計画内容を検討することができました。

今回の勉強会を通して、市担当者の方に市町村森林整備計画の制度や作成の実務について理解していただけたと思います。今後は管内3市と連携しながら、計画の樹立に向けて手続きを進めていきたいと思っています。



市町村森林整備計画について

（島原振興局 林務課）



林業団体情報

# 「ながさき県民の森 フォトコンテスト2020 表彰式」を開催しました!!

令和2年11月8日(日)14時から、長崎県庁1階 エントランスホールにて「ながさき県民の森 フォトコンテスト2020」の入選者表彰式が開催されました。

今回は過去最高となる133点もの作品に応募いただき、その中から、10点が入選作品に選出されています。

主な入選者は以下のとおりです。

☆最優秀賞「初めての森散策」

たかはし ひでたか  
高橋 英敬 氏 (長崎市)

☆優秀賞「森林館と戯れ」

じんの まさてる  
陣野 正輝 氏 (長崎市)

☆優秀賞「全力疾走」

たなか はるき  
田中 春記 氏 (長崎市)

その他 入選作品3点、特別賞4点

新型コロナウイルスの感染拡大で大変な時期ではありますが、ながさき県民の森がご家族や友人の憩いの場となっていることを、大変嬉しく思います。

また、11月8日～11日にかけて、ドンダリのひみつ展とフォトコンテスト応募作品の展示会も同時開催されました。

ドンダリのひみつ展では、子ども達が楽しそうにドンダリの独楽を作ったり、展示された本物のドンダリに興味津々の様子でした。



ドンダリのひみつ展の様子



最優秀賞 高橋 英敬氏とご家族の皆様

今回の応募作品は、家族や友人をテーマとした生き生きした作品が多数ありました。

表彰式にも、ご家族で参加いただいた方が多く、終始、和やかな雰囲気の中での表彰式となりました。

ながさき県民の森 フォトコンテスト2020の入選作品はながさき県民の森HPに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

アクセスはこちら→



ながさき県民の森では、次年度も引き続きフォトコンテストを開催予定です。ながさき県民の森にお越しの際は、ぜひカメラに思い出を納めてください。

次年度も皆様の思い出の一コマをお待ちしております。

(ながさき県民の森)

センターだより

# ドローンの飛行高度とラップ率について

## はじめに

先月号では、ドローンを使って作成したオルソ画像の精度について紹介しました。本号では、オルソ画像を作成する際の飛行高度とラップ率について紹介していきます。

## 飛行高度について

200g以上のドローンは航空法の規制により、高度150m以上の飛行が禁止されています。それ以上の高さで飛行させるためには、国土交通大臣の許可が必要になります。ここで言う高度とは、「対地高度」であり、地表面や水面から機体までの高さになります（図1）。一般的なドローンでは、「離陸地点からの高度」を一定で自動飛行するため、規制の範囲内に収まるよう注意が必要です。

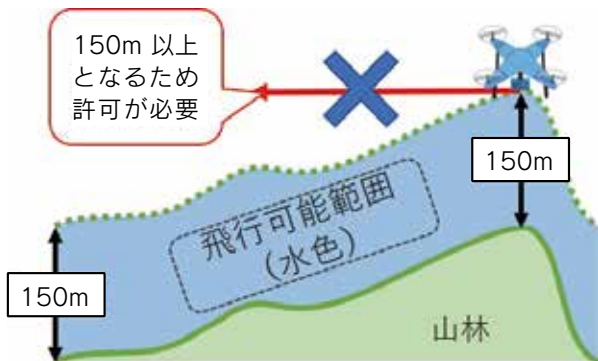


図1：対地高度の考え方

## ラップ率について

オルソ画像を作成するためには、画像が重なるように撮影していく必要があります。この画像の重なりを比率をラップ率と言います。また、ドローンの進行方向の重なりをオーバーラップ、隣のコースとの重なりをサイドラップと呼びます（図2）。この2つのラ

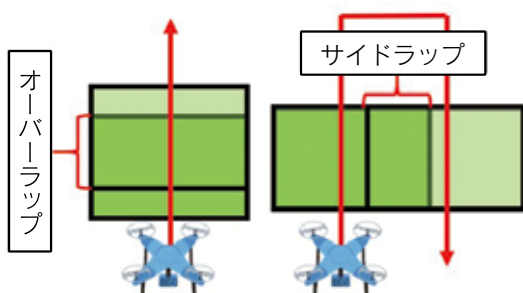


図2：オーバーラップとサイドラップのイメージ図

ップ率は、基本的に60%~90%で設定を行います。森林を撮影する際は、より高い値の方が好ましいとされています。

## 離陸地点からの高度とラップ率

図3は、オーバーラップ率とサイドラップ率を80%に設定し、離陸地点からの高度を変えて飛行させ、写真を繋げた結果です。青い点が繋がっていない写真、青い四角がつながった写真を示しています。100mと120mでは、一部の写真が繋がっていないことがわかります。これは、地上との距離が近くなったところでは撮影範囲が小さくなり、ラップ率が足りなくなったことが原因と考えられます（図4）。この場合は離陸地点の標高や飛行高度（対地高度）、またはラップ率を上げる事で写真が繋がるようになると考えられます。

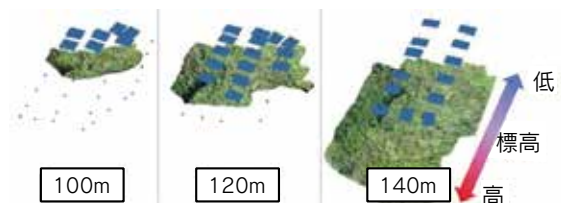


図3：離陸地点からの高度別の画像解析結果

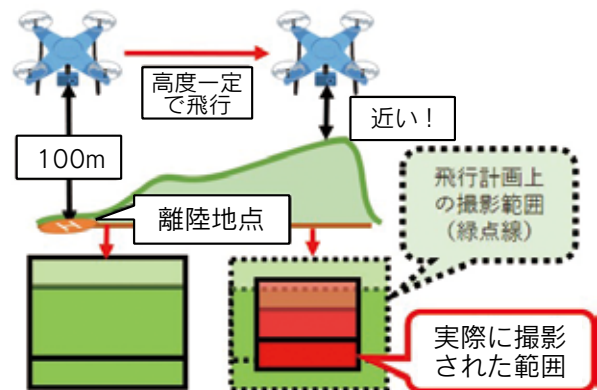


図4：ラップ率が減少するイメージ図

## 終わりに

森林のオルソ画像を作成するには、地形に応じた飛行高度やラップ率の設定が重要です。引き続き、オルソ化に最適な飛行条件のマニュアルの作成を進めていきます。

（農林技術開発センター）

## 紹介コーナー 平戸槇の木庵 井上睦夫商店



まきとこぼしら

平戸市に全国的にも珍しい「槇床柱専門店」があるのをご存知でしょうか。槇の木は雨風に対する耐久性に優れ、白アリにも強い建築木材として古くから大変重宝されてきました。その特徴から神社や寺院の材としても用いられ、今でも多くの人々を楽しませています。槇の木は床柱として利用できる大きさまで成長するのに80年を有するそう。4年前に他界した床柱職人の井上睦夫さんは、平戸島全域と生月島を巡り、良い槇の木を探し出しては地主さんと交渉し、手にした原木を大事に丁寧に磨き上げ約1年かけて1本の床柱に生まれ変わらせたそうです。建設業者や大工さんの口コミ

で広まり県内外から熱烈なファンが訪れる槇の木庵の展示場は平戸市と松浦市の2カ所にあり、井上さんが丹精込めて作り遺した300本を超える床柱が出番を待って眠っています。現在は、睦夫さんと二人三脚で伝統を守り続けた奥様の玲子さんが切り盛りする槇の木庵。木々の息遣いが聞こえてきそうな清らかな静寂に包まれた展示場で、世界にひとつの貴重な床柱に触れてみませんか。



### 平戸槇の木庵 井上睦夫商店

事務所：長崎県平戸市岩の上町821-4

電話：0950-23-3278 (来店の際は要連絡)

展示場：長崎県松浦市御厨町西木場免323

展示・倉庫：長崎県平戸市大野町481

## 伊万里木材市況

### 【ヒノキ】

令和2年12月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	19,000	普通	多い	普通
	16～18	小曲り	18,000	普通	多い	普通
	20～22	直	18,600	普通	多い	普通
	20～22	小曲り	17,300	普通	多い	普通

### 【スギ】

令和2年12月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	13,300	多い	多い	多い
	16～22	小曲り	12,000	多い	多い	多い
	24～28	直	13,300	多い	多い	多い
	24～28	小曲り	12,000	多い	多い	多い

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

## ほ ば だけ 長崎の山：帆場岳506m（長崎市）



帆場岳は長崎市の北東部にあります。帆場岳の名前の由来は、長崎港に入港する帆船の目印になったことからきているそうです。帆場岳の山頂は小高い丘を含めて4つあるのですが、どこから見ても3つに見えるので別名三ツ山とも呼ばれます。「三ツ山の森」は市民ふれあいの森の1つになっています。帆場岳の頂上は全方位に視界が開けており、長崎港や市街地を一望することができます。頂上からぐるりと見まわすと西彼半島や長崎市牧島、多良山系及び大村湾まで一望することができます。

頂上の広がりには長崎市の無線中継所や県の防災無線などが3か所設置されています。これもひとえに全方位で視界が開け、情報伝達が容易な地の利に基づいているからでしょう。また、帆場岳の山頂を囲むように保安林が何か所も設定され、森林が保全されています。恵の丘がある西側斜面は、教育や祈りの場、さらに癒しの場として地域に根付いているようです。一方、現川に面した東側斜面は、現川町や森林研究・整備機構の分収造林地が広がっています。分収造林地とは、植林地を提供した土地の所有者と植林を実施した人や組織が別々であることです。植林木を伐採した利益は、契約に基づき両者で分配されます。現川町の分収造林地の場合、帆場岳の頂上付近から現川峠に広がる長崎市有地24haを現川町に貸し付け、現川町が植林とその後の森林管理を引き受けています。

ところで拡大造林を実施する前の帆場岳の森林は、どういう状況だったのでしょうか。当時の状況を知るため、現川町にお住いの山本龍夫さん（80歳）をお訪ねしました。帆場

岳の麓にある現川町はかつて足場丸太や農産物の生産が盛んで、乗り合いバスが普及する以前は野菜などを早朝から提灯の明かりを頼りに仁田→諏訪神社付近→新地と行商に約20km歩くほどの山間の地でした。当時、集落の周りには森林にスギを密植し下刈りや除伐をおこない20年かけて足場丸太の生産がおこなわれていました。収穫した足場丸太は業者の方が集荷に来ていたそうです。また、帆場岳は一部の造林地を除いて雑木林でした。現川町には炭焼き職人が5、6人おり、生産した炭俵（60kg）を天秤棒で担いで市街地まで運搬したそうです。これらの物資は地元の貴重な現金収入源でした。現代は車社会で当時の血のにじむような苦労を思い起こすことは容易ではありません。しかし先人達のたゆみない努力の結果、私たちは今の便利な時代を生きることができています。



帆場岳の周辺では、現川里山保全の会を含む4つの森林ボランティア団体が森づくり活動を行っています。これらの活動を通じて、手入れの行き届いた森林がいくつも出現して帆場岳周辺の森林はいっそう親しみやすく、魅力的になることでしょう。森林ボランティア活動にエールを送ります。

（NPO法人地域循環研究所）

長崎の林業 1月号 第784号  
編集・発行 長崎県林政課  
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号  
電話：095-895-2988  
ファクシミリ：095-895-2596  
メールアドレス：  
s07090@pref.nagasaki.lg.jp